



7月号

令和5年6月23日 発行

# 四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校  
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60  
TEL(048)466-4711  
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

## 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

校長 稲泉 功

梅雨の中休みで天候も晴れとなった6/10（土）、<sup>おやおやたい</sup>親親隊の皆さんと本校ふれあいガーデンの整備をいたしました。このたびは、第八小学校103（とうさん）の会OBのご参加をいただき、大規模な改修となりました。参加していただきました保護者の皆様、地域の皆様、部活動の生徒たちには心から感謝しております。このふれあいガーデンは、学校・家庭・地域の連携の証として、また本校のSDGsの象徴として、今後も維持していく所存です。

さて、教育のICT化が進行している昨今ですが、昨日の新聞で、ChatGPTのような「生成AI」の使い方をめぐり、文科省からガイドラインが示されるという記事がありました。そこには、定期テストでの使用は不適切、討論中に視点を提示する際は適切であること等の具体例が掲載されていました。技術の進化に伴うツールを教育現場で実際どのように活用していくのかは、今後の学校の命題です。振り返りますと、令和元年6月施行の「学校教育の情報化に関する法律」を出発点として、その後の感染症拡大防止を経て教育のICT化が加速し現在に至ります。

国の教育振興基本計画には、教育デジタルトランスフォーメーション（以下DX）の推進が掲げられています。DXに至る段階は①「電子化」→②「最適化」→③「新たな価値」の3つです。例をあげると、紙ベースなどアナログをデータに変換することで、ご家庭への配布物をメールにすとか、教科書をデジタル教科書にすることや、やり取りしていた課題をデジタルで配布・処理したり、双方向でやり取りすることや、面談の日程調整や調査をクラウドツールで行うことが①・②にあたり、家庭・学校双方ともに負担が削減される考えです。③に至ると、教室から離れているところからでも授業を受けることができたり、教科も再編され、現在とは異なったものになるなど、業務のプロセスを根本的に見直し、既存の業務を前提にせず再構築して新たな価値を見出すこととなります。ずいぶん先のことのようにも思えますが、アナログとデジタルをどちらでもできるのであれば、これからはデジタルを使った方が、将来的に手間やコストがかからないようになるのです。国からは、デジタルと併せてリアル（対面）活動も不可欠とし、場面に応じて組み合わせ、この5年間で、③を見据え、①・②の移行を着実に進めることが求められています。

教育DXの推進により、5年後10年後には生徒にとって教育環境はより便利で快適なものになっているのでしょうか。その頃には、もっともっと新しく便利な教育ツールが登場し、新たな学校の姿が創造されているのでしょうか。

確実なのは、①や②を経ないと一足飛びで③には至らないということです。本校といたしましては、タブレットの活用を含め次世代の教育環境の充実へ向けた取組を行ってまいりますので、保護者の皆様におかれましては、ご理解とご協力をお願いします。



6/10、ベンチや玉砂利が設置され、憩いの場となったふれあいガーデン。ガーデンアーチも組み立てて、英国風イングリッシュガーデンの装いになりました。